

# LEADERS NOW!

## 初等部での「なぜ？」が今の学びの原点

一人ひとりの問題意識や行動力を大切にしてくれた環境

◎法学部4年次生  
天羽 咲希さん



天羽 咲希—あもう さき

■2001年大阪府生まれ。2010年、関西大学初等部3年次に編入学。中等部、高等部を経て、2020年関西大学法学部入学。初等部入学式では代表宣誓、中・高等部卒業式では答辞を務めた。初等部での国際交流をきっかけに、インドの貧困や教育の問題に関心を持つ。現在は国際問題の中でも、特に貧困地域での衛生教育をテーマに卒業論文に取り組んでいる。



中等部



高等部

▲卒業式で答辞を述べる天羽さん



初等部 (写真・左)総合学習での発表 (写真・右)4年次「2分の1成人式」でのスピーチ



2010年、関西大学初等部の1期生として3年次に編入学した天羽さん。その後、中等部、高等部を経て、現在は関西大学法学部で学ぶ。初等部で感じた「なぜ？」が今の自身の学びの軸となり、自身を支える礎となった。

「振り返ると初等部での国際交流で感じた『なぜ?』が私の学びの原点ですね。当時、初等部との国際交流を目的に来日する予定だったインドの子どもたちが、突然、ビザの関係で入国できなくなったのだ。「理由を聞いて、現地の貧困を知り、じっとしていられなくなって……みんなで支援活動を始めたんです」。

フリーマーケットでの収益金や家にある未使用の文房具を、NGOを通して貧困地域の小学校へ届けた。そのことがきっかけで、現地の子どもたちとオンライン通話を通して交流を重ねたという。「私と同世代の子どもたちが、毎日の生活のままならない状況でも、『学びたい』という強い意志を持ち続けていることを知って、いろいろと考えさせられました」。自身も負けずに勉強して、将来はこの子どもたちもきちんと学べるような環境づくりに携わられたら……と幼いながらに決意した。

中・高等部でも、自ら関心や問題意識を持って学ぶ環境が揃っていたこともあり、さらに深く掘り下げて学び続けられたという天羽さん。高等部ではSGH<sup>※</sup>研究報告会のプロジェクトゼミでリーダーを務め、ポスターセッションでは『貧困地域の教育と雇用をつなげた人材育成』をテーマに発表もした。その結果、「個人研究優秀ポスター賞」「個人研究優秀論文賞」を受賞した。

関西大学法学部へ進学したのは、貧困や途上国について研究する上で、障壁となるのが国の制度や法律だと感じたから。現在、国際政治経済論のゼミナールに所属し、SDGsにも関連する衛生教育について研究を進めている。子どもたちに手洗いやうがい習慣を付ける方法など現地の実情に合わせた衛生教育の方法を中心に研究し、卒業論文に取り組んでいる。

来春から大手家電メーカーに就職するという天羽さん。就職先は「世界中の人や環境に優しい」会社にこだわった。「選考の過程で、同じテーマで10年以上研究を続けたことは予想以上に評価されました。関心と問題意識をもって研究を続けていたことが、知らないうちに自分の強みになっていきました。進学してもずっと私を後押ししてくれた一貫校だからこそできた学びだったと思いますね」。

「私が就職する大手家電メーカーはインドにも拠点があります。機会があれば、いつかインドでも働いてみたいですね」。彼女がインドで活躍する日はそう遠くはないかもしれない。



▲カナダ研修旅行のホストファミリーと (写真右端が天羽さん)

## “誇れる人生”のために

空手が教えてくれた自身の生き方

◎商学部3年次生  
笹裏 健士朗さん



中等部

2010年、関西大学初等部の2期生として2年次に編入学した笹裏さん。クラスでは率先してリーダー役を担う傍ら、4歳から始めた空手は国内外の大会で次々に結果を残した。中等部進学後は学習にも懸命に取り組み、高等部では成績優秀者に選ばれた。まさに、「まだまだこれから」と新たな道へ踏み出す。

◀第11回JKJO全日本ジュニア空手道大会で優勝した笹裏さん

笹裏さんが空手を始めたのは、兄の影響だった。道場に通い始めてからの上達はめざましく、すぐに全国に名を知られる選手になった。中等部で水泳部に所属したのも空手のため。「空手に役立つしなやかな筋肉や高い心肺機能が、水泳で鍛えられると勧められたんです」。高等部では、海外の大会でも優勝するなど、笹裏さんの少年期は常に空手とともにあった。「ちなみに水泳でも、学年別大会でリレーメンバーに選ばれたんですよ(笑)」

「母によると、関西大学初等部に行きたいと言いついたのは僕らしいです」。入学してすぐに英語の楽しさに触れ、オーストラリアへの修学旅行では運営委員長を務めた。「現地の学校との交流会で、英語で簡単なスピーチをした程度ですが」と謙虚な笹裏さん。中等部進学と同時に学習にも注力した。空手の練習時間を確保するためにも、毎日の授業に集中し、その場で理解できるように心がけた。高等部1年次にはフィリピンでの語学留学も経験。2年次にはこの体験をもとに「フィリピンの貧困問題」に関する論文を書いた。高等部卒業時には成績優秀者表彰を受け、「高校生新聞社賞」にも推薦された。

「全てが今の自分につながっています」。初・中・高等部での学校生活をそう振り返る。「グローバルな視点は初等部で養われましたし、論文の書き方は高等部で培われました」。そして、何よ



初等部

◀卒業式で先生や友人たちと一緒に  
▼テーブルマナー講座での一コマ



笹裏 健士朗—ささうら けんしろう

■2002年兵庫県生まれ。2010年、関西大学初等部2年次に編入学。中等部、高等部を経て、2021年関西大学商学部入学。4歳から始めた空手は国内外の数々の大会で優勝を飾る。高等部では3年連続で成績優秀者。文武両道が評価され「高校生新聞社賞」(2020年度)も受賞した。

り大学進学と空手が両立できたことを喜ぶ。「実は、兄は北陽高校から、姉は第一高校から関西大学に進学した僕の先輩です」。

そんな笹裏さんがずっと続けてきた空手にいったん区切りをつけようと思ったのは、昨年の秋。最後の舞台に選んだのは、何度も優勝を目指して挑んだ1年で最も大きな全日本大会。前回は前回と3位。「優勝しか考えていませんでした」。笹裏さんがすべてをかけて臨んだ5月の大会は、これまでの自身の集大成でもあった。試合中に負ったケガをものともせず、勝ち進んだ準決勝では大会連覇中の王者を倒した。決勝に進むも、結果は準優勝。「悔しかった。でも、しっかり受け止めて今後の糧にしていきます」。目標に向かって、心技体を極限まで磨いた自分に満足できた。選手としては引退するが、今後も後進の指導で関わっていくつもりだ。

笹裏さんが次に目指すのは海外留学。「いつかは長期留学したいなと考えていましたが、空手を最優先してしまっていたのでどこかで諦めていました」。目下、来年のアメリカ留学に向けて準備中だ。「英語力を身に付けて、アメリカでビジネスを学び、さらに視野を広げたいです」。

笹裏さんが求めるのは、いつも空手の師が言う「誇れる人生」。空手でも学業でも人に誇れるか、自分に誇れるかどうかが納得と満足の基本だった。「空手ではそれが少しは達成できました。今度はこれからの仕事や生き方に求めていきたいです」。アメリカ留学を経て、一段と成長する笹裏さんの今後の活躍が期待される。



中等部



高等部

(写真・上)カナダ研修旅行で現地の学生と交流  
(写真・下)フィリピン語学留学でできた友人と

※SGH=スーパーグローバルハイスクール